



年頭のご挨拶	1ページ
5病棟の生活のひとこま⑧ / 「やまばとギャラリー」情報コーナー / 医療安全管理室からのお知らせ③	2ページ
お子さんの耳そじについて / 医療福祉相談室だより / 三重病院外来糖尿病教室[1月]のお知らせ	3ページ
アレルギー教室のクッキング / 外来からのお知らせ / 外来診察のご案内	4ページ

年頭のご挨拶

国立病院機構三重病院 院長 藤澤隆夫

あけましておめでとうございます

2015年の大ニュースの中で、もっとも明るく、そして私たちの誇りとなったのはノーベル生理学・医学賞の大村智さん、ノーベル物理学賞の梶田隆章さんでした。スポーツでも日本ラグビーやフィギュアスケートの羽生選手、すごかったですね。暗いニュースも少なくありませんでしたが、私たちは、勇気づけられるニュースを力にして、よりよい世界になるよう、ひとりひとりの力を合わせていきたいですね。

三重病院の2015年大ニュースは、12月に公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審したことでした。病院機能評価とは、患者様に医療を提供する私たち病院の機能が適切かどうかを客観的に評価する仕組みです。評価調査者（サーベイヤー）が中立・公平な立場にたって、所定の評価項目に沿って病院の活動状況を評価します。評価で明らかになった課題に対して病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られるのです。

その結果、三重病院の活動は、患者支援体制、医療安全、医療関連感染制御、地域連携と啓発活動、チーム医療、栄養管理、職員教育と研修など多くの面で適切であり、いくつかの面ではとくに秀でていると高い評価をいただくことができました。思い返しますと、2015年の初頭にはノロウイルス感染で皆様にたいへんなご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたしますが、その後、徹底的な見直しと改善をさせていただいた結果が、今回、感染制御活動

においても適切であるとの評価につながったと考えております。今回の評価を活かし、今後もさらに医療の質向上を図っていく所存です。

さて、三重病院は「**小さな子どもから高齢者まで社会的弱者を支える総合成育医療機関**」という位置づけのもと、**3つの柱**で新しい2016年も努力いたします。ひとつは、小児救急をはじめとする**総合的な小児医療**です。2017年には同じ敷地内に三重県によるこども発達医療センター（仮称）が開設されますが、経営母体は異なっても、有機的な連携で質の高い小児医療センターとして機能すべく、2016年は重要な準備の年と位置づけております。

ふたつめは**難病拠点病院として神経難病医療、国の政策医療としての重症心身障害医療、そして慢性呼吸器疾患、糖尿病など成人期疾患に関わる専門医療の充実**です。いずれも地域からのニーズにお応えすべく、こどもから高齢者という「成育サイクル」に位置づけてさらなるレベルアップを図ります。

みつめは、**臨床研究と医療者教育の充実**です。私たちは比較的規模の小さい病院ですが、感染症やアレルギーの分野では先進的な治療法開発の研究で全国からも高い評価をいただいています。また、医師をはじめ、すべての医療従事者の質向上のための教育事業にも力を入れていきます。

2016年、新たな飛躍をめざして、職員一同、精進いたします。どうかよろしく願いいたします。

